

鶴崎地域まちづくりビジョン フォローアップ会議 通信 第5号

発行：令和6年3月1日 鶴崎地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行しています。

『地域まちづくりビジョン』とは

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取組をまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

鶴崎地域の将来像(コンセプト)【みんなが住みたくなる伝統と文化のある街】

○将来像実現に向けた提言

提言1：鶴崎の伝統・文化を「まもり」「つなげる」「いかす」

鶴崎地域にしかない伝統と文化を守り、次の世代へつなげ、観光資源などに生かす取組を行うことで地域の活性化を図るべきです。

- 【提案事業】：①豊かな歴史と伝統文化の継承 ②史実の顕彰による観光連携の強化
③地域イベントの拡大事業 ④鶴崎地域の農業の振興

提言2：豊かな川の恵みを見つめなおす

鶴崎地域を流れる一級河川である大野川と乙津川の恵みを生かした取組を行うことで特色ある街づくりを行うべきです。

- 【提案事業】：⑤大野川、乙津川の河川敷を利用したスポーツ施設整備とマラソン大会の実施
⑥川を活かした街づくり事業
⑦防災と豊かな川を活かした街づくり

提言3：鶴崎駅や鶴崎市民行政センター周辺を核とした街のにぎわいづくり

鶴崎駅を起点とした鶴崎地域の南北を結ぶ交通網の整備や地域コミュニティ機能、防災機能を充実させるために公民館を整備するなど、住民生活の利便性を向上させ、さらに地域外から人が集まる街を作ることで鶴崎地域全体の活性化を図るべきです。

- 【提案事業】：⑧鶴崎駅周辺の整備
⑨鶴崎市民行政センター周辺の整備

提言4：将来住みたくなる街づくりに向けた取組を推進

鶴崎地域の未来を担う子どもたちが将来もこの鶴崎に住みたくなるような街を作るために、教育環境の充実や地域の防災力を強化する取組などを行うべきです。

- 【提案事業】：⑩地域全体の防災力の強化 ⑪鶴崎地域の学力向上、地域間交流
⑫空き家、空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進
⑬高田校区に多目的グラウンドの整備
⑭将来住みたくなる街づくり

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議とは

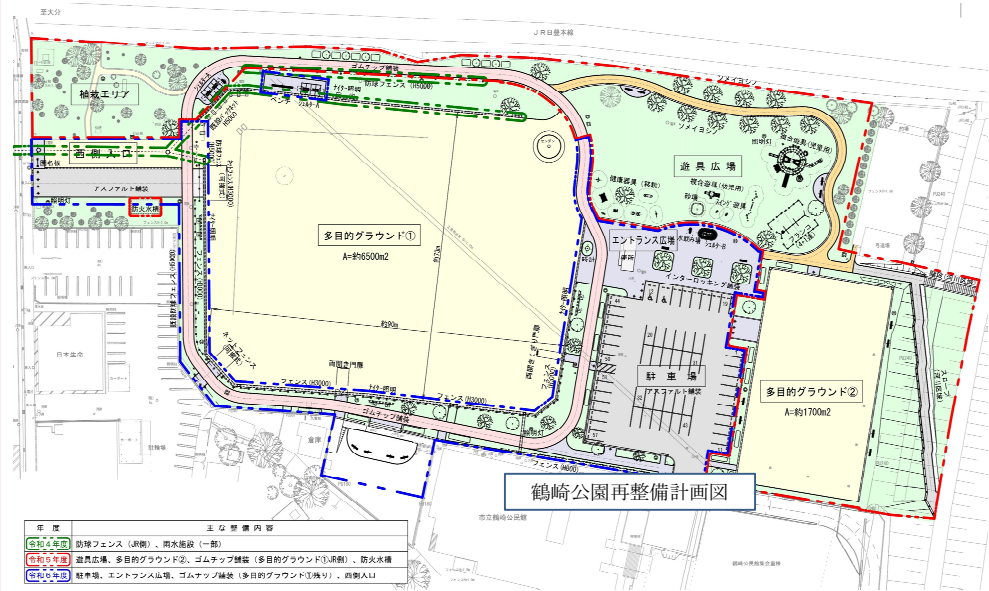
「地域まちづくりビジョン」において提言された各事業の具現化に向けて、地域の代表者である委員と行政がお互いに「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を確認し、今後の進め方や課題について情報共有や意見交換を行うものです。鶴崎地域では11月7日(火)に鶴崎市民行政センターで開催しました。

<お知らせ>

「鶴崎公園の再整備」(提言3関連)を行っています。

<経緯>

平成8年に策定された『鶴崎支所周辺整備基本計画』について、住民の意向も踏まえ、社会情勢の変化等に柔軟に対応した計画にするため、平成30年度に『鶴崎市民行政センター周辺整備のあり方検討協議会』を設置し、有識者及び地域住民の代表者等の意見等により見直しを行い『鶴崎市民行政センター周辺整備基本計画』が策定されました。更に令和元年度に地域住民の代表者等と意見交換を行い、鶴崎公園再整備基本設計が作成され、現在整備工事を行っています。



<整備予定期間>令和4年度～令和6年度

<整備計画の概要>

- ◆老朽化した遊具の取り換え、健康器具の再配置
- ◆ウォーキング、ジョギング等を想定した、ゴムチップ舗装の園路の設置
- ◆園路利用者の安全確保のため、防球フェンスの設置
- ◆駐車場のアスファルト舗装
- ◆堤防に続く園路の整備
- ◆遊具広場やグラウンド、駐車場にアクセスする拠点として、既存のトイレの位置にエントランス広場を設置し、時計や休憩施設等を整備
- ◆イベント時等に臨時駐車場として利用可能な、小さめの多目的グラウンドの整備
- ◆遊具広場北側に桜(ソメイヨシノ)を植樹 など

地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況及び意見交換の内容(抜粋)

フォローアップ会議では、各事業の取組状況を報告し、これをもとに意見交換を行いました。本通信では、そのうち主な内容について以下に掲載しました。これからは鶴崎地域がさらに魅力あるまちとなるよう、地域の皆さんと行政が協力しながら各事業の取組を進めていきます。

提言1:鶴崎の伝統・文化を「まもり」「つなげる」「いかす」

(事業1) 豊かな歴史と伝統文化の継承

- ・「鶴崎踊」「三佐の山車」「けんか祭り」などの伝統や文化を継承する
- ・伝統文化継承の拠点となる鶴崎公民館を整備する
- ・地域の子どもが伝統文化とふれあう取組を行う



今年度の本場鶴崎踊大会

【事業の取組状況】

(行政) 地域において守り伝えられてきた祭りなどの伝統文化の継承・再興・発展を通じ、地域における世代間交流及び活性化に寄与する事業を行う団体を対象に、必要な道具の購入や修理などに係る費用に対して助成している。

(地域) 鶴崎おどり保存会が、鶴崎小学校で原則毎週月曜日に鶴崎踊の基本形の指導を行っている。また、これまで、三佐小学校や松岡小学校、別保小学校、大分支援学校中学部の子どもたちを対象に踊りの指導を行った。

【会議で出された意見等】 ◆鶴崎おどり保存会は、令和6年度に創設100周年を迎える◆

鶴崎おどり保存会は、来年度で創設100周年を迎えることから、今年度は「鶴崎おどり保存会創設99周年本場鶴崎踊大会」として、49年ぶりに国道197号で開催した。また、来年度の100周年にむけて、記念行事等の準備を進めている。

(事業3) 地域イベントの拡大事業

- ・外部から新たに地域イベントをプロデュースできる方を招いて地域イベントを活性化させる

【会議で出された意見等】 ◆県内で初めて、『いすー1グランプリ』を開催◆

鶴崎商工青年部は、11月26日、法心寺周辺特設コース(1周約200m)で、事務イス2時間耐久レース『いすー1グランプリ大分鶴崎大会』を開催する。

2010年、京都府内の商店街で地域活性化の一環として始められ、3年前に熊本県内で開かれた大会に初出場した際、会場の盛り上がりが見事だったことから、地元で開催することで鶴崎の街を全国の人に知ってもらい、地域活性化、地域交流につなげていきたいとの思いから誘致し、県内では初めて開催する。

※大会当日は、多くの参加者が熱い戦いを繰り広げており、大いに盛り上がっていた。



いすー1グランプリ大分鶴崎大会

提言2:豊かな川の恵みをつつめなおす

(事業6) 川を活かした街づくり事業

- ・豊かな川がもたらす水の恩恵を子どもたちの郷土愛を育む教育へと生かす
- ・大野川沿いの幹線道路を整備する
- ・川がもたらす資源を守り、育んで有効活用する

【事業の取組状況】

(地域) ◆乙津川河口付近干潟の清掃活動を実施◆

三佐校区では、5月から11月までの原則第1土曜日に貴重な動植物が生息する乙津川河口付近干潟の清掃活動を実施しており、年1回ほど自然観察会又は野鳥観察会も実施している。

【会議で出された意見等】

- ・乙津川河口付近の干潟には大量のごみが流れ込んでおり、取っても取り切れない状況である。ごみを減らす良い方法はないか。
- ・乙津川は絶滅危惧種など大変貴重な動植物が生息しており、ある意味宝の川であるというような意識を持ってもらいたい。
- ・鶴崎地区全体が、設定した日に一斉に清掃活動を実施するという方法を取れないか。



乙津川河口付近干潟の清掃活動

提言3:鶴崎駅や鶴崎市民行政センター周辺を核とした街のにぎわいづくり

(事業8) 鶴崎駅周辺の整備

- ・鶴崎駅周辺のバスの利便性を向上させる
- ・地域を循環するバス路線があればまちの活性化につながる
- ・鶴崎駅周辺にカフェやレストランができればにぎやかになる

【事業の取組状況】

(行政) ◆「鶴崎駅周辺整備基本構想」を策定◆

鶴崎駅前広場や周辺の道路整備など鶴崎駅を中心としたまちづくりについては、駅前広場の整備や周辺市道の改良、街区公園の機能再編などを示した「鶴崎駅周辺整備基本構想」を令和5年3月に策定した。

(地域) 鶴崎駅周辺整備基本構想策定にあたり、地域の意見を反映してもらうため、主に鶴崎校区の関係者12名が参画する「鶴崎駅周辺整備推進会議」を設立し、その会議の中で要望内容を取りまとめ、鶴崎駅周辺整備基本構想策定委員会に対し要望書を提出した。

提言4:将来住みたくなる街づくりに向けた取組を推進

(事業10) 地域全体の防災力の強化

- ・地域のインフラを強化して防災面を強化する
- ・地域住民の防災意識を向上させる

【事業の取組状況】

(行政) ◆津波避難場所「家島命山」が完成◆

津波到達までに高台や津波避難ビル等に避難できない地域住民や公園利用者が緊急に避難する場所として整備を進めていた、津波避難場所「家島命山」が完成した。

南海トラフ地震発生時の家島周辺の最大津波高は3.6mと想定されているが、家島地区沿岸部の標高は約2~4mであり、地区内には津波避難ビル等が少ないため、標高10mの人口高台を築造した。



津波避難場所「家島命山」

■本回覧物は、大分市ホームページにも掲載しています。■お問い合わせ: 大分市市民部鶴崎支所 TEL: 527-2111